



立て心よ 行け私よ

No.13

文責:齊藤 正一

校長講話「恕」(令和5年2月8日リモートで実施)



今からスライドで見てもらいたい言葉は何ですか?すぐにわかると思います。

・元気に登校しよう!

授業に集中…勉強をしよう 作業をがんばろう
おもいやり…言葉遣い、相手の気持ちを考えて行動しよう

仲良しなクラス

・Kindness~仲良く明るいクラスと共に~

・あ→相手のことを考えた行動や会話をし→自分からして、

た→楽しく、

へ(え)→笑顔の絶えないクラスにしよう!

- ・深い絆~みんなの深い絆で協力し、差別がない最強のクラス~
- ・One for all~みんなの力が合わさればその力は無限大~
- ・団結し 明るい笑顔 溢れ出すみんなで輝くクラス
- ・十人十色
- ・責任・理解・協力 自分の言動に責任をもち、お互いを理解し、協力し合えるクラス
- ・Smile & Power
- ・SKY Team S=最強、K=輝く、Y=優しい、T=楽しく、e=笑顔、a=明るく、m=ミラクル
- ・お(お互いを理解し合える)
ひ(一つのことを真剣に取り組める)
さ(支え合える)
ま(毎日笑顔の絶えないクラス)
- ・Step by Step
- ・おにぎり おにぎりの具のように様々な個性のある人を尊重して生活し、卒業する。
- ・一致団結
- ・One for all All for one

そうです。各クラスの学級目標です。今年度の春、1年生は小学校5校から入学し、2年生はクラス替えを経て、それぞれ新しい仲間と同じクラスになりました。また、3年生は中学校生活最後の1年を1年間共にした仲間と共にしました。それぞれのクラスが、それぞれのクラスをよりよいものにしていくために、クラスとして一人



学級目標

唯一無二・Only Oneの 学級文化

一人が1年間向かうべき目標をみんなで決めましたね。そして、毎日の学級の係活動、授業、生徒会活動、修学旅行、職場体験学習、妙高自然体験学習、墨坂祭での大縄、リレー、合唱等を通して、仲間や先生方と笑ったり、泣いたり、励まし合ったり、時にはぶつかり合ったりしながら、その学級にしかない唯一無二の、オンリーワンの学級文化を作り上げてきましたね。卒業式まであと1ヶ月余りとなりました。きっとそれぞれのクラスではこの1年間を振り返り、学級目標に沿いながらクラスの振り返りをするでしょう。お互

いに自分のクラスのこの1年間の頑張りを認め合うことが次へのエネルギーや意欲になるはずですよ。有意義な振り返りができることを期待します。

さて、今日はそれぞれクラスの学級目標の根底にあるものについて、お話します。クラスって集団ですよ。「人間一人では生きられない」ってよく言われます。逆に言うと「人間の多くは社会の中で生きていく」ということ、つまり「集団の中で生きていく」わけです。社会の中で人としてよりよく生きていくためには、人と人との関係をよりよくしていくことが大切になります。墨坂中がめざす資質・能力の中の「他者関係力」が大切になります。【他者関係力】とは「伝え合い、わかり合おう!」ということ。つまり、友の意見や考え、行動を尊重し、参考にしながら、自分の考えや行動を見つめ直し、友との関係を深めていく力ということで、教室にも掲示されていますね。

その「他者関係力」のもとになるものは「思いやり」だと思えます。1年2組の「Kindness」はまさしくそのものです。1年2組の2学期末の学級通信に次のように書かれていました。「みんなそれぞれ、だからこのクラスは個性があって面白い!違いがあるからこそ、時には上手くいかないことも…そこで大切なのはいつもの「思いやり」です。これからも仲間の小さな変化に気づき、先生や友達に相談したり、そっと声をかけたり、じっと見守ったり、全力で盛り上げたり…どんなサポートが仲間にとっての思いやりになるか考えて行動しましょう。『みんなが私に優しくしてくれたように、私もみんなにやさしくなりたい』と書いてくれた仲間もいました。優しさの輪が広がりますように! 2023年はいよいよ先輩になる年です!頑張りましょうね!」と。この「思いやり」ということは、文言こそ様々ですが、皆さんのクラスの学級目標の中の根底に位置付いているのではないかと思います。

皆さんは、孔子という人を知っていますか。孔子は、今から二千五百年前、現在の中国の山東省に生まれた、中国の儒教、儒学を始めた人です。その教えを記した書『論語』の中に次のような一説があります。きっと知っている人もいることでしょう。

ある時、孔子の弟子の子貢(しこう)が孔子に、「人として生きていく上で、一番大切なことを、ひとつの言葉で言うとしたら、何でしょうか」と聞きました。孔子は「それは

『恕(じょ)』という言葉だ」と答えました。『恕』という言葉の意味は、思いやり、ということです。「思いやり」とは、具体的にどんなことでしょうか。孔子は「恕」と答えた後、続けて「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」と言いました。この意味は、「自分が人からされて、いやだなと、思うことは、人にはしてはいけません。いつも、相手を思う、いたわりの心をもてたらいいですね」ということです。



もう一つ思いやりに関する詩を紹介します。12年前の東日本大震災の時にテレビの民放がコマーシャルを自粛したときに、ACジャパンが流したCMでも使われました。

宮澤章二の詩「行為の意味」朗読。
※「行為の意味」を含む宮澤章二さんの作品は、宮澤章二『行為の意味』(ごま書房新社)等で読むことができます。

先週の金曜日の下校時刻に、いつものように昇降口で生徒の皆さんと挨拶をかわしました。その時、3年生の下駄箱の床に先に帰った生徒の上履きの片方だけが落ちていることに気づきました。その靴を拾おうと歩を進めようとしたとき、ある3年生の男子がその靴に気づいて、何事もなかったようにその靴を拾い上げて、片方しか入っていない下駄箱を探しそこにもどしてくれました。その姿を見て、私は思わず拍手をしてしまいました。その生徒はマスク越しにニコッと私を見てくれました。さすが、墨坂中学校生徒です。心が暖かくなった瞬間でした。墨坂中学校では、きっと毎日のようにいろんな所でこうした何気ない思いやりや心遣いの行動が見られ、温かな空気が漂っていることと思います。



あと、1ヶ月あまりで、今年度が終了します。まずは隣の友達に、班の友達に、クラスの友達に、学年の友達に、部活の友達に、生徒会の友達に、全校の友達に「恕」を「心遣い」を「思いやり」を一人一人が、いつものように具体的な行動に表せると墨坂中学校に春が来ますね。

立志式挙行「よーい、はじめ」

2月6日(月)、2学年の立志式が挙行されました。「全体の部」では、美術部員が制作したステージバックが披露され、実行委員長あいさつ、立志の歌「立て心よ」の披露、校長先生からの激励の言葉がありました。新型コロナウイルス感染症対策として、過去2年間は、「立て心よ」の合唱は行われませんでした。今年、久しぶりに、体育館の隅々にまで歌声を響かせることができました。

その後、クラスごとに教室で行われた「学級の部」では、一人ひとりが、クラスの仲間と保護者の皆様の前で、立志の決意を堂々と発表しました。

自律のためのスタートラインを自分自身で引いた2学年生徒一人ひとりのこれからの行動に心から期待しています。



【立志式実行委員長の挨拶より】

今日、2月6日。私たちは立志式を迎え、これまで、家族に育ててきてもらった私たちも、中学2年生になりました。今年は、特に、職場体験学習や講演会など、私たちもじきに社会に出ていくんだということを意識させられる場面が多くあり、これから社会に出るまでに、もっと力をつけていきたいと感じました。

立志。それは志を立てるということ。私たちは、志をもつことで成長していけるのです。私たちは、立志式を迎えるにあたって、自分を見つめなおし、それぞれ、「立志の決意」をもちました。今日は、自分自身に、そして、ここに
いるみなさんに、私たちの立志を決意表明し、明日からまた一歩ずつ、歩いていきたいと思ひます。



新入生 中学校説明会

2月7日(火)、本校に入学予定の小学6年生のみなさんとその保護者の皆様に向けた中学校説明会が行われました。説明会の後半は、1学年生徒会の役員が中心になって準備をし、運営した会となりました。

最初に、1学年生徒による「校歌」が紹介されました。感染症拡大防止のため、直接に聞いてもらうことはできず、事前に撮影したものを披露したのですが、伸び伸びとした明るい歌声を聞かせることができました。続いて、中学校生活の様子を、スライドを使いながら説明しました。いくらか緊張しながらも、中学校の様子を発表することができました。

現1年生は、入学前に説明会が行われませんでしたので、どのような会なのかイメージしにくかったかもしれません。それでも、堂々と発表する姿からは、もうすぐ「先輩」と呼ばれるようになる、という自覚が感じられました。発表だけではなく、事前の準備や練習も含めて、自分のためではなく、新入生のために活動することが、「先輩」としての姿や行動をつくっているようです。



HIT防止研修

今年度も、県内教職員による不祥事があり、県民の皆様のご信頼を損ねるような残念な状況が見られています。墨坂中学校では、非違行為・いじめ・体罰を防止するための研修(HIT防止研修)を継続して実施しております。今年度は、これまでに、いじめ防止・体罰や暴言の防止・飲酒運転の防止・個人情報の管理の徹底・安全管理(ヒヤリハットリスト)・性暴力の防止・事実確認のための面接方法・パワーハラスメントの防止・金銭管理の徹底等についての研修を行ってまいりました。

これからもさらに研修を積み重ね、教職員による非違行為・いじめ・体罰等が起こらないように全力で取り組んでまいります。皆様のご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

～いじめ防止の取組について～

新聞等でも報道されていますが、2月7日に文部科学省から「いじめ問題への的確な対応に向けた警察との連携等の徹底について」という通知が出されました。

いじめが発生した場合、学校に対して、

- ・被害児童生徒を徹底して守り抜くとの意識の下、落ち着いて教育を受けられる環境を確保すること。
- ・加害児童生徒に対しては毅然とした態度で指導しつつ、特別な配慮を必要とする場合は適切な支援を実施すること。
- ・犯罪に該当するような重大ないじめ事案等があった場合は、警察に相談・通報を行い、適切に援助を求めること。

等を求める内容となっています。従来の「いじめ防止対策推進法」等で示された内容と基本的には同じですが、警察に相談・通報すべき行為の具体例が示されています。

本校では、今回の通知の内容も踏まえ、「須崎市立墨坂中学校いじめ防止等基本方針」(本校HPでも確認できます)に従い、いじめを許さない学校づくりを進めて参ります。いじめに関してはもちろん、お子様の様子で何かご心配なこと、気になることがあれば、遠慮なく本校職員までご相談ください。